

令和3年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和4年3月31日

学校法人福岡医療学院

福岡医療専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1	5-16 就職等進路.....	23
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	2	5-17 中途退学への対応.....	24
1-1 理念・目的・育成人材像.....	3	5-18 学生相談.....	26
基準 2 学校運営.....	5	5-19 学生生活.....	28
2-2 運営方針	6	5-20 保護者との連携	31
2-3 事業計画	7	5-21 卒業生・社会人.....	32
2-4 運営組織	8	基準 6 教育環境.....	34
2-5 人事・給与制度.....	9	6-22 施設・設備等.....	35
2-6 意思決定システム	10	6-23 学外実習、インターンシップ等	36
2-7 情報システム	11	6-24 防災・安全管理	37
基準 3 教育活動.....	12	基準 7 学生の募集と受入れ.....	38
3-8 目標の設定	13	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか	39
3-9 教育方法・評価等	14	7-26 入学選考.....	41
3-10 成績評価・単位認定等	15	7-27 学納金	42
3-11 資格・免許の取得の指導体制	16	基準 8 財務.....	44
3-12 教員・教員組織.....	17	8-28 財務基盤.....	45
基準 4 学修成果.....	18	8-29 予算・収支計画	46
4-13 就職率	19	8-30 監査.....	47
4-14 資格・免許の取得率.....	20	8-31 財務情報の公開	48
4-15 卒業生の社会的評価	21	基準 9 法令等の遵守	49
基準 5 学生支援.....	22	9-32 関係法令、設置基準等の遵守	50
		9-33 個人情報保護.....	51
		9-34 学校評価.....	52
		9-35 教育情報の公開	53

基準 10	社会貢献・地域貢献.....	54
10-36	社会貢献・地域貢献.....	55
10-37	ボランティア活動.....	56

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和3年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決策
○ 教育理念 親が子に残せる唯一の財産は教育である。 ○ 目 標 教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、知識・技術・人間性を兼ね備えた人材を育成することを目的とする。	○ 教育活動 知識・技術・人間性を備えた医療人材を育成する。 ○ 実践的な職業教育 医療機関等と連携し、最新の実務の知識等を身につけられるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む。 ○ 大学設置に向けた取り組み 医療系大学の設置計画を具体化する。	○ 教育活動・学修成果 国家試験合格率（令和3年度） 柔道整復師 94.7% （38名受験、36名合格） はり師 96.6% （29名受験、28名合格） きゅう師 100% （29名受験、29名合格） 理学療法士 98.2% （57名受験、56名合格） 診療放射線技師 100% （43名受験、43名合格） 看護師 96.7% （30名受験、29名合格） JATI-ATI 100% （39名受験、39名合格） ○ 実践的な職業教育 12月までは、感染症対策を講じながら実習を継続することができたが、1月以降のオミクロン株の急拡大により、最高学年を除き遠隔授業に切り替え、実技授業に影響を生じる結果となった。 ○ 大学設置に向けた取り組み 大学設置に向けた校地整備及び取得活動を行った。	○ 教育活動・学修成果 令和3年度卒業生の国家試験の結果は左記のとおりであった。新型コロナウイルス感染症拡大期においても、学びを止めることなく、医療従事者になる上で必要な知識・技能を修得させることが求められている。 来年度も、遠隔授業と対面授業を併存しながら、質の高い教育を提供できるように、教職員の研修にも力を入れていく必要がある。 ○ 実践的な職業教育 地域医療機関から要請を受け、令和5年度より歯科衛生士の養成課程を新設することを決定した。 ○ 大学設置に向けた取り組み 地方自治体との連携を図りながら、校地取得交渉を継続する。

最終更新日付

令和4年3月25日

記載責任者

滝沢 哲也

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の教育理念・目的・養成人材像を明確に定め、学校案内やホームページに明記して、教職員並びに学校関係者が共有できるよう努めている。 教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会等をとおして、地域医療機関等からの意見を集約し、養成人材像の見直しやカリキュラムの改善に努めている。 地域社会から求められる医療従事者を養成できるように、教職員の FD・SD 研修や学会参加を積極的に支援して、最新の知識や技術の修得、指導力向上に努めている。	令和 4 年度の診療放射線科と看護科のカリキュラム変更承認申請を行った。 地域医療機関からの強い要請を受け、令和 5 年度に歯科衛生科を設置することを決定した。

最終更新日付	令和 4 年 2 月 1 日	記載責任者	滝沢 哲也
--------	----------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	本校の教育理念・目的・育成人材像は教職員、学校関係者が共有すべき重要なものと考え、明確に定める。	教育理念・目的・育成人材像は、学則、本校ホームページ及び学校案内パンフレット等に明確に公表している。	理念等は教職員間で周知徹底されているが、学生、保護者、非常勤講師に対する理解浸透を更に深めていくことが必要である。	学校案内パンフレット 学生募集要項 本校ホームページ 学則 シラバス 3つのポリシー
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	教育課程編成委員会、次年度教育内容会議及び学校関係者評価委員会等を通じて得た業界等のニーズをカリキュラムの作成に反映させ、育成人材像を見直す。	各学科において教育課程編成委員会、次年度教育内容会議及び学校関係者評価委員会等と協議して作成したカリキュラムに基づき指導および教育を進めている。	関連業界から求められる育成人材に関して、就職支援室を中心とし、更なる情報収集を進めていく。	教育課程編成委員会議事録 次年度教育内容会議議事録 学校関係者評価委員会議事録 シラバス 本校ホームページ 就職活動報告書
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	福岡医療専門学校における3つのポリシー「DP」「CP」「AP」を学科ごとに定め、特色のある職業実践教育に取り組む方針である。	3つのポリシーを踏まえた実践的な教育を実施するため、臨床経験豊富な教員を授業に配置している。	「DC」「CP」「AP」の目標に沿った指導教育が出来るように教職員の更なるスキルアップが求められる。積極的な外部研修への参加を推奨していく。	学校案内パンフレット 学生募集要項 本校ホームページ 学生要覧 3つのポリシー シラバス
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会等より得た情報を常に把握し、時代に即した職業教育の確保向上に取り組む。	将来構想を実現する人材を養成するため、学内FD・SD研修、外部研修会等を活用して、多様な場面における教職員の対応力及び資質向上に努めている。	卒業生からのニーズや意見を聞き入れる機会を各学科がどのように増やしていくべきかを検討していく。	事業計画書 学校案内パンフレット 本校ホームページ 教育課程編成委員会議事録 研修会参加報告書 学内FD・SD研修会抄録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の教育理念、目的、育成人材像について明確に定めその周知に努力している。 また、育成人材には関連機関等の協力のもと業界のニーズに沿った対応に努めて将来の有すべき姿を構想し、教職員一丸となって取り組んでいる。	令和４年度の診療放射線科と看護科のカリキュラム変更承認申請を行った。 地域医療機関の要請を受け、令和５年度に歯科衛生科の設置を計画している。

最終更新日付	令和４年１月２１日	記載責任者	小磯 嘉貴
--------	-----------	-------	-------

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校運営組織は、教育課程は5学科と1コース、校務分掌は8課体制を整えて、組織的な学校運営を行っている。学校会議規程に基づき、必要な委員会及び会議を設置し、組織的な意思決定を行っている。 決定された内容は議事録にまとめ、教職員会議等で教職員に伝達されるとともに、グループウェアで周知を図り、業務の効率化を図っている。 職員採用規程に基づき、学校運営の状況を加味し人員の確保や配置を行っている。また、育児休暇やキャリアアップのための学会参加や大学院進学に対する支援を行っている。	新型コロナウイルス感染症の拡大期には、学生及び教職員の安全を最優先して、分散登校や遠隔授業への移行等の必要な措置を行った。 「新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」を定め、感染症対策を実施した。 理事会・評議員会において、令和5年度に歯科衛生科を新設することを決定し、設置準備室を立ち上げた。

最終更新日付	令4年2月1日	記載責任者	滝沢 哲也
--------	---------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	運営方針は評議員会の意見を踏まえて理事会で決定する。	学校校務分掌(8 課体制)と各学科間との連携を取り業務遂行に努めている。 この連携により特にコロナ禍の感染対応に有効に機能した。	運営方針に沿った学校運営を実行するために、職場環境の整備(ネットワーク等)や業務効率を上げるための自己啓発の推奨を進めていく。	理事会議事録 評議員会議事録 学校会議規程 運営会議議事録 教職員会議議事録 事業計画書 学科会議議事録 新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
運営方針は評議員会の意見を踏まえて、理事会で決定している。	運営方針に基づいた学校運営を、コロナ禍においても支障をきたすことがないように進めている。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	小磯 嘉貴
--------	-----------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	事業計画を定め、適切な学校運営に努める方針である。 学科及び校務分掌毎に年間計画を立て業務を遂行する。	毎年度、校務分掌毎に事業計画案を作成し、理事会及び評議員会において承認を受けている。 この事業計画書をもとに学校運営を行っている。	コロナ禍において事業計画を柔軟に変更することが求められている。	事業計画書 理事会議事録 評議員会議事録 運営委員会議事録 学科会議議事録 課内会議議事録 組織図 教職員会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、事業計画を作成し理事会及び評議員会にて承認を得ている。その事業計画の執行状況については、理事会及び評議員会によって検証され、次年度の事業計画に反映されている。	令和5年4月に歯科衛生科の設置計画の申請を行った。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	小磯 嘉貴
--------	-----------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	寄附行為の規程に基づき、理事会と評議員会を開催して適切な運営を行う。	私立学校法の一部改正に伴う寄附行為の変更については昨年度に完了している。 理事会と評議員会を定期的に開催し、組織的運営の方向性の確認と伴に、透明性の確保に努めている。	感染症対策等を踏まえ、学校運営も迅速かつ臨機応変に対応できる体制を整える必要がある。新たに歯科衛生科の認可申請中であり、その教育内容等について理事及び評議員への情報提供等を適切に行うことが課題である。	法人寄附行為 理事・監事・評議員名簿 理事会議事録 評議員会議事録 組織図 学内諸規程 教職員会議議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	適切な学校運営に取り組むため、組織及び規程を整備する。	学校運営組織の中で、教育課程を変更する。既設 5 学科に加え、新たに歯科衛生科を設置計画中である。校務分掌は 8 課体制を整えて、組織的な学校運営の協働体制を構築している。	学校運営において教職員の業務能力の向上のため、学内 FD・SD 及び外部研修を積極的に活用する。歯科衛生科の設置計画に関して、各教職員が理解するための情報提供をする必要がある。	学校会議規程 学校業務規程 組織図 法人寄附行為 FD・SD 研修会抄録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
寄附行為を遵守して法人運営を行う。運営のために必要な学内諸規程を整備し、組織的な運営を行う。 学校運営組織は、教育課程は 5 学科に加え歯科衛生科を設置計画中である。校務分掌はこれまで通り 8 課体制を継続し、組織的な学校運営の協働体制を構築している。	歯科衛生科の設置計画に伴う教育内容等について理事及び評議員に情報提供を適切に行うとともに、学内研修等で教職員の理解を高める。

最終更新日付	令和 4 年 1 月 21 日	記載責任者	中村 秀樹
--------	-----------------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	事業計画に基づき必要な人材を確保する。勤務規程、給与規程を定めて、必要な人材の確保に努める。	人事は学校運営の状況を加味し、人員の確保や配置を行っている。 勤務規程及び給与規程に基づき賃金を定めている。	コロナ禍の状況を踏まえた労働環境(在宅勤務、勤務時間、通勤方法)の改善を進めている。	勤務規程 給与規程 職員採用規程 教職員名簿 学会参加規程 本校ホームページ 新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職員採用規程に基づき、学校運営の状況を加味し人員の確保や配置を行っている。また、育児休暇やキャリアアップのための支援を行っている。	新型コロナウイルス感染対策のガイドラインに従い、職場員における感染対策の指導、教職員の勤務時間短縮、通勤方法の変更の取り組みを行った。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	小磯 嘉貴
--------	-----------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	学校会議規程を整備して、学校運営に必要な意思決定システムを定める。	学校会議規程等に基づき、各会議が開催される。決定した内容を議事録にまとめ、さらに教職員会議等で教職員に伝達している。また新型コロナウイルス感染対策等、迅速な対応が必要な案件については、臨時で会議を開き、速やかに決定、伝達を行っている。	組織的な意思決定事項を迅速に伝達できるように教職員限定学内グループウェア「サイボウズ」の活用をしている。 新型コロナウイルス感染症対策等に伴う在宅勤務や、休日中の緊急伝達については教員間の情報共有アプリ「Slack」を活用し必要な対応をしている。	学校会議規程 理事会議事録 運営会議議事録 教務委員会議事録 教職員会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校会議規程に基づき、委員会及び会議を設置し、組織的な意思決定を行っている。 決定された内容は議事録にまとめ、教職員会議等で教職員に伝達されるとともに、教職員限定学内グループウェア「サイボウズ」で周知を図っている。 新型コロナウイルス感染対策等、迅速な対応が必要な案件については、臨時で会議を開き、速やかに決定、伝達を行っている。	迅速かつ適切な意思決定を行うため、教職員限定学内グループウェア「サイボウズ」の活用を図る。新型コロナウイルス等感染症対策に伴う在宅勤務や、休日中の緊急伝達については教員間の情報共有アプリ「Slack」を活用し必要な対応をしている。

最終更新日付

令和4年1月21日

記載責任者

中村 秀樹

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化 に取組み、業務の効率化を図っているか	業務の効率化を図るため、学内の情報システムを常に円滑に稼働させ情報システム及びソフトウェア製品による支援を確立する。	データ管理はクライアントサーバシステムで運用している。学内のネットワークは利用部門ごとにセグメントに分割しているためセキュリティが確保されている。さらに情報資産へのアクセス権限を利用者ごとに管理している。 遠隔授業の環境下において学習効率を上げるためにオンライン学習支援ツールを導入している。	遠隔授業の通信環境を良好な状態で安定させる。そのためインターネット回線の複線化と通信プロトコルの変更を行う。 オンライン学習支援ツールの活用を促し教授する知識の定着と理解を進める。	パソコン配置図 無線 AP 情報一覧 コンピューター使用ルール ウィルス感染等の防止について 個人情報保護規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業務の効率化を図るためにネットワーク環境を整備している。情報資源はクライアントサーバシステムで運用している。情報システムの運用においては、パソコン等の使用規程と情報資産に対するアクセス権限を明確に設定しセキュリティ対策を行っている。	新型コロナウイルスの感染予防のために、今後も遠隔授業の実施が予想される。更なる ICT 環境の整備と教職員の ICT 活用指導力の向上を進める。

最終更新日付	令和4年1月17日	記載責任者	中西 代志弘
--------	-----------	-------	--------

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程の編成・実施方針、教育到達レベル、進級・卒業要件は、理念等に沿って定めている。 教育課程は、基礎・専門基礎・専門分野に分類して体系的に編成しており、教育課程編成委員会や次年度教育内容会議を通じ、外部の意見を反映しながら教育課程を見直している。キャリア教育も、学外と連携した臨床実習等の職業教育を通して実施している。 成績評価は、学則及び履修要項の定めに則り、会議にて単位認定・進級・卒業を判定している。技術等の評価は、臨床実習や進級に向けた実技審査、修得内容を報告する実習報告会等で行っている。 資格に関しては、医療専門課程の修了者に国家試験の受験資格を与え、(高度)専門士の称号を授与している。資格取得に向けて、科目担当、クラス担任及び国家試験対策課が連携して指導を行っている。 教員は、専修学校設置基準及び学科毎の養成施設指定規則を満たしており、各教員は指導力・研究力・臨床力の向上に努めている。そして、学科毎に副校長、学科長、クラス担任等を置き、学科会議を開催して情報を共有し、組織的に活動している。	教育課程の編成・実施方針については、理念等に沿いながら、高齢化やIT化等の社会環境に対応した不断の見直しをしている。新設学科もそれを踏まえた教育課程の編成・実施方針を定める。 各学科ともカリキュラム改正にて実践的な視点に立った科目を据え、それに適した講師を招聘している。そして、臨床実習の単位数を増やして、臨床現場との連携による職業教育に重点を置いている。 学事システムの導入により、備えるべき表簿の電子化、成績評価表や帳票作成の効率化を実現し、さらなる利便性の向上を図っている。 国家資格以外にも、職業に関連した民間資格（運動指導、美容、放射線取扱 他）のセミナー等を開催して取得機会を提供している。また、国家試験対策課が主導して、必要に応じた補講や補習を実施している 教員が、学科や分掌を越えた交流ができる環境を構築しており、周辺業務にも携わることで幅広い視点やマルチタスクスキルを身に付けている。

最終更新日付	令和4年2月8日	記載責任者	藤瀬 正
--------	----------	-------	------

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	理念等（理念・目的・養成人材像）に沿って、卒業認定の方針に基づく教育課程の編成・実施方針を定める。	外部の意見や社会のニーズを取り入れながら、理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めている。	令和 5 年度に新設する歯科衛生科も、理念等に沿った教育課程の編成・実施方針にする。	学則 3つのポリシー シラバス 学校パンフレット
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	学科毎に定めた卒業認定の方針に基づき、教育到達レベルと進級・卒業要件を定める。	学科毎そして学年毎に教育到達レベルを示し、進級・卒業要件を定めている。	令和 4 年度に改正する診療放射線科と看護科の教育課程と教育到達レベルを点検する。	学則 履修要項 シラバス

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念に沿って、教育課程の編成・実施方針、教育到達レベル、進級・卒業要件を定めている。 教育課程を改正する学科は、教育到達レベルの点検をする。	教育課程の編成・実施方針については、理念等に沿いながら、高齢化や IT 化等の社会環境に対応した不断の見直しをしている。新設学科もそれを踏まえた教育課程の編成・実施方針を定める。

最終更新日付	令和 4 年 1 月 19 日	記載責任者	田淵 弘太郎
--------	-----------------	-------	--------

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	教育目的・目標に沿った養成人材像と卒業認定の方針を示し、その達成に向けた教育課程を体系的に編成する。	教育目的・目標に沿って、教育課程を基礎・専門基礎・専門分野に分類し、体系的な教育課程を編成している。	令和4年度の診療放射線科と看護科のカリキュラム改正が教育目的・目標に沿っていることを点検する。	学則 3つのポリシー シラバス
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	教育課程編成委員会を開催し、外部の意見を反映する。委員は本校と関連業界の役職者や有識者で構成する。	教育課程編成委員会を開催し、ここでの提案や実施報告等を次年度教育内容会議で検討して教育課程に反映している。	診療放射線科と看護科は新しい教育課程が始まるので、教育課程編成委員会で状況報告や意見交換をする。	学校会議規程 教育課程編成委員会議事録 次年度教育内容会議議事録 職業実践専門課程の基本情報
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	社会的・職業的自立に向けて、体系化した職業教育で職業観を涵養する。	学外と連携した臨床実習等で職業観の基盤となる知識・技術・人間性を育成している。	感染症対策による制限があり、臨床実習を工夫する必要がある。	学則 シラバス 職業実践専門課程の基本情報
3-9-4 授業評価を実施しているか	学生や教員による授業評価を実施し、教育能力の向上を図る。	学生の授業評価アンケートやFD・SD研修会を実施し、教育能力の向上に努めている。	Google Formを活用した授業評価アンケートを導入したので、項目等を点検し見直す。	授業評価アンケート結果 FD・SD研修会抄録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
基礎・専門基礎・専門分野に分類した体系的な教育課程を編成しており、教育課程編成委員会や次年度教育内容会議を通し、教育課程を見直している。 臨床実習等の体系化した職業教育を通してキャリア教育を実施している。 授業評価アンケートやFD・SD研修会にて教育能力の向上に努めている。	各学科ともカリキュラム改正にて実践的な視点に立った科目を据え、それに適した講師を招聘している。 また、臨床実習の単位数を増やして、臨床現場との連携による職業教育に重点を置いている。

最終更新日付	令和4年1月19日	記載責任者	田淵 弘太郎
--------	-----------	-------	--------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	学則及び履修要項で定めた成績評価・修了認定基準に則り、進級・卒業判定を行う。	会議にて、単位認定・進級・卒業・既修得単位認定を判定している。	成績評価・管理に学事システムを導入したので、運用のなかで改良を進める。	学則 履修要項 進級判定会議議事録 卒業判定会議議事録
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	実技審査の合格者が臨床実習に臨み、そこでの修得内容を評価できるように体系化する。	臨床実習や進級に向けた実技審査で技術等を評価し、実習報告会で修得内容を評価する。	コロナ禍で、模擬患者を用いた技術習得が困難なため、評価法等を工夫する。	実技審査結果 実習評価表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
会議にて、単位認定・進級・卒業を判定しており、それを管理している学事システムの改良を進める。 臨床実習や進級に向けた実技審査で技術等を評価し、実習報告会で修得内容を評価している。	学事システムの導入により、備えるべき表簿の電子化、成績評価表や帳票作成の効率化を実現し、さらなる利便性の向上を図っている。

最終更新日付	令和4年1月19日	記載責任者	田淵 弘太郎
--------	-----------	-------	--------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	各学科の医療専門課程を修了した者には、国家試験の受験資格を与え、(高度)専門士の称号を授与する。	課程修了者に、柔道整復師、はり師きゅう師、理学療法士、診療放射線技師又は看護師の国家試験受験資格及び(高度)専門士の称号を与えている。	新設予定の学科も歯科衛生士の国家試験受験資格と専門士の称号を授与できるように所轄官署へ申請する。	学則 学校パンフレット 学生募集要項
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	国家試験対策課を設置し、資格取得のための指導体制を構築する。	科目担当、クラス担任及び国家試験対策課の連携により、きめ細かく指導している。	柔道整復師とはり師きゅう師の国家試験出題基準の変更に対応する。	学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
医療専門課程の修了者には国家試験の受験資格を与え、(高度)専門士の称号を授与している。新学科についても同様となるよう所轄官署に申請する。 資格取得に向けて、科目担当、クラス担任及び国家試験対策課が連携して指導を行っており、国家試験出題基準の変更にも対応する。	国家資格以外にも、職業に関連した民間資格（運動指導、美容、放射線取扱 他）のセミナー等を開催して取得機会を提供している。 国家試験対策課が主導して、必要に応じた補講や補習を実施している。

最終更新日付	令和4年1月19日	記載責任者	田淵 弘太郎
--------	-----------	-------	--------

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	文部科学省令及び厚生労働省令に準拠した教員を確保する。	専修学校設置基準及び学科毎の養成施設指定規則を満たす教員を配置している。	令和 5 年度に新設予定の歯科衛生科の資格・要件を備えた教員を確保する。	文部科学省令 厚生労働省令 学校基本調査票
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員の経験等に応じて知識や技術の研さんが積めるように支援する。	指導力・研究力・臨床力向上のため、研修会参加の助成、学位取得の推進、FD・SD研修会や臨床研修日を設けている。	コロナ禍において、オンラインによるFD・SD研修会の実施を検討する。	学会参加規程 研修等の実績及び計画 FD・SD研修会抄録
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教員組織における業務内容や責任体制を明確にし、組織的に活動する。	学科毎に副校長、学科長、クラス担任等を置き、学科会議を開催して情報を共有している。	教員間で教育アプリケーション等を活用し、情報共有のスマート化を図る。	学科担任表 学科会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専修学校設置基準及び学科毎の養成施設指定規則を満たす教員を配置しており、各教員は指導力・研究力・臨床力の向上に努めている。 学科毎に副校長、学科長、クラス担任等を置き、学科会議を開催して情報を共有し、組織的に活動している。	教員が、学科や分掌を越えた交流ができる環境を構築しており、周辺業務にも携わることで幅広い視点やマルチタスクスキルを身に付けている。

最終更新日付	令和 4 年 1 月 19 日	記載責任者	田淵 弘太郎
--------	-----------------	-------	--------

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今年度も昨年度同様、新型コロナの感染拡大が続いているものの、昨年から充実した学習環境、感染対策、さらに職域ワクチン接種の実施等により対面授業・遠隔授業ともスムーズに実施でき、学修における大きな支障はなかった。ただ、感染力の強い新たな変異株の影響(第6派)で特に低学年で欠席者がやや増加した。それに伴い遠隔授業が多くなったが、最高学年は健康チェックや学内での教室や動線を別にするなど感染予防の徹底を図り、対面授業を実施した。学外実習は、昨年に比べて外部医療機関や実習施設のご理解、ご協力で実施できたが、一部は学内実習で対応した。 学生支援では、コロナ禍における多種の奨学金の申請手続き等や zoom による企業説明会は問題なく進められたが、就職活動に関しては早期から支援するようにセミナー等を計画したものの、学生の意欲は低く、就職活動は全体的に遅れ気味であった。全体の求人倍率は全科とも卒業生実数を上回っており、学生支援課就職支援室を中心とした活動の成果は維持されている。 今後、ウイズコロナにおいても外部実習機関や校友会などと積極的に連携を取り、卒業生の社会的評価を把握するとともに、関係医療機関の求人票やパンフレット等の情報を学生が閲覧しやすい様に更に活用、改善していく。 国家試験結果は、5 学科ともに合格率が全国平均を上回り全国トップレベルを維持できたが、昨年のコロナ禍での学習不足を補うため今年度は早期からの実力試験、学力試験、確認試験、卒業試験など多様な試験を導入したことで、学力を補完する効果が多少とも現れたと思われる。来年度に向けて 5 学科で連携を図り、学力到達度を確認しながらグループワーク、個別指導などの取り組みなど効果的な教育改善を図る。	今年度はワクチン接種を積極的に推奨し、本校において教員、職員および学生に対しワクチンの職域接種を実施した。また常時 PCR 検査キットも備えて適宜実施し、感染予防の徹底による対面授業の維持に努めた。

最終更新日付

令 4 年 2 月 18 日

記載責任者

谷口 邦久

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13 就職率の向上が図られているか	就職率 100%を目指し、一人一人の自己実現を目指すことを方針とする。 全学科において外部医療機関等と臨床実習を実施しながら積極的な就職情報交換を行い、卒業生を就職に送ることができるよう密接に連携していく。	各学科に就職支援担当教員を配置し、担任との連携のもと就職支援を実施している。 今年度は早期に就職セミナーを開催し、昨年度の実績、就職活動の進め方や履歴書の作成方法を説明し、いち早く就職活動に取組めるように計画した。 現在は Zoom 等を使用した遠隔による企業説明会も実施されており、積極的に利用するように促した。 また、就職面接も遠隔にて実施されることも多く、オンライン面接の練習も実施した。	早期から学生が就職活動を実施するようにセミナー等の計画をしたが、なかなか学生の意識が就職に向かないのが現状である。セミナー等でより学生がモチベーションと危機感を持ちながら取組むことができるようプログラムを改善する必要がある。 今後は就職活動時に使用される求人票やパンフレット等を学生が閲覧しやすいように更に活用、改善していく必要がある。	学校案内パンフレット 求人情報閲覧用資料 就職先・求人先訪問データ 卒業生の就職者データ(数、率) 就職活動報告書 就職支援セミナー報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
全体の求人倍率は〇〇.〇倍（令和４年〇月〇〇日現在）で、全学科において卒業生実数を上回っており、学生支援課就職支援室を中心とした活動の成果は維持されている。今後は、学生が就職活動を更に満足してすすめることができるように就職支援を計画し、早期から学生が気持ちに余裕をもって積極的に就職活動へ参加できるよう実施していく。	次年度以降も各学科学外実習を計画しているため、密接な連携と就職率向上に向けて取組んでいく。

最終更新日付

令和３年１月２１日

記載責任者

柿木 邦友

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14 資格・免許取得率の向上が図られているか	国家資格取得に向けた取組みを入学年次から実施する。 最上級生に対しては、模試を定期的に行い、成績が基準に満たない学生に対して補習を実施する。	低学年については、定期的に国家試験に準じた形式の試験を行い、国家試験の形式や出題範囲、傾向等を把握させ最上級生に進級した際に必要な勉強内容を意識付けするとともに、学習意欲の向上を図る。 最上級生に対しては、定期的に行う模試により理解度を確認する。理解度を確認することでその後の補習内容・方法等を修正し、より理解度を深める。	国家試験の出題範囲の広がりや、より臨床に即した出題、現在の社会情勢に照らし合わせた出題等、年々難易度が上がっている。 最上級生については講義形式による全体指導で理解させるには限界があり、個々人に対するきめ細やかな指導が必要である。グループワークや個別指導等を採用し、難易度の上昇に対応する必要がある。	学校案内パンフレット 国家試験合格者状況表 本校ホームページ 模試・補習の年間予定表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家試験の難易度の上昇に適応するため、従来の講義形式による補習だけでなく、グループワーク、個別指導等を採用し個々人に対するきめ細やかな指導を行う。	柔道整復師国家試験は、今年度から令和2年3月に改訂された国家試験出題基準で実施されるため、この新出題基準に対応した対策を実施した。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	藤井 和彦
--------	-----------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生の社会的評価を把握するには、卒業生とのつながりを強固に保つ必要がある。そのために校友会を組織し、卒業生の現況と社会的評価を把握する。	卒業生と在校生、卒業生間、卒業生と教職員の交流を図り、現況の把握と社会的評価について聞き取り、フォローアップを加える目的で、年2回の校友会を企画している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったため、令和3年度は、Zoomを使用し遠隔にて実施した。	卒業生の活動把握の為、校友会参加者等の情報を参考にしながら現況把握に努めている。 卒業生が勤務している臨床(臨地)実習先への教員による訪問や、研修会への参加により、卒業生の動向と社会的評価を聴取する。	校友会名簿 学校案内パンフレット 本校ホームページ 校友会案内

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
卒業生の社会的評価の把握と向上には、卒業生の現況を把握する必要があるが、校友会による活動だけでは掌握が難しい。各教員が臨床(臨地)実習先への訪問や勉強会への参加により、卒業生の動向を聴取する。	特になし。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	藤井 和彦
--------	-----------	-------	-------

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
最上級生の就職率 100%を目標としている。学生支援課就職支援室を組織し、担任と連携のもと、就職活動相談や模擬面接を実施している。 学びの継続の観点から、感染予防対策を徹底することで対面授業を多く実施した。そのため、学生の抱える学習面やその他の諸問題については比較的迅速かつ的確に対応していくことができ、退学率も低減できたと考える。引き続き学生の退学率の低減、更には学校自体の学生満足度向上に努める。 学生相談については、担任を中心に問題の早期解決に取り組んでいる。ただし、保護者等との連絡については電話や文書等が中心で、直接面談することが感染症の状況により困難な状況が続いている。今後遠隔形式での面談等も検討していく。 経済的支援として、担任と奨学金担当部署で情報を共有し、令和3年度から認定を受けた修学支援新制度等を活用しながら対応した。修学支援新制度は学生の約1割が利用している。今後も円滑に支援ができるよう担当者だけでなく、教職員全体で対応できるような体制を構築していく。 学生寮に関しては提携寮と連携、入学前の宿泊体験も受け付けることで遠方からの就学不安の低減に努めている。 卒業生へのキャリアアップ支援として本年度は2回校友会を実施した。基調講演のみであったが、次年度は就職相談やキャリアアップ支援が実施できるよう計画する。 また、コロナ禍であっても、社会人が安心して学び易いように、環境の整備を実施する。	令和4年3月卒業生に対する就職求人倍率は、理学療法科 77.6 倍、診療放射線科 15.0 倍、看護科 245.5 倍、柔道整復科 48.0 倍、鍼灸科 49.0 倍であった。（令和4年2月14日現在） 留学生在籍 1 名（診療放射線科 2 年） 令和3年度より、高等教育の修学支援新制度の取扱いを開始した。

最終更新日付	令和4年2月15日	記載責任者	田中 七郎
--------	-----------	-------	-------

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	学生支援課就職支援室を組織し、クラス担任との連携のもと、学生の就職支援と希望進路へのサポートを行う。 就職活動の早期化に対応できるよう年度当初にセミナーを実施し、就職活動する学生が円滑に進められるように支援していく。	今年度は学生が円滑に就職活動を進めることができるように早期より学生支援室を開放し、情報提供を実施した。 履歴書の記載事項についても就職支援室メンバーにて検討し、本校独自の履歴書を作成した。 また、企業との連携も対面やオンラインを積極的に使用し情報交換を行った。	就職活動の早期化が進む中、その環境に対応すべく活動を実施したが、思ったように学生が反応を示さずに苦労した。就職セミナーについても、学生が余裕をもって円滑に活動進めることができる再度プログラムを検討していく必要がある。	組織図 学校案内パンフレット 就職試験報告書 就職試験内容記録 就職説明会案内 就職支援セミナー報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職率 100%を目標としている。学生支援課就職支援室を組織し、担任と連携のもと、就職活動相談や模擬面接を実施している。 次年度は就職セミナーの内容を再検討し、早期より学生が円滑に就職活動を進められるように支援していく。	令和 4 年 3 月卒業生に対する就職求人倍率は、理学療法科 77.6 倍、診療放射線科 15.0 倍、看護科 245.5 倍、柔道整復科 48.0 倍、鍼灸科 49.0 倍であった。（令和 4 年 2 月 14 日現在）

最終更新日付	令和 4 年 2 月 15 日	記載責任者	柿木 邦友
--------	-----------------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	学生が抱える様々な問題に対し早期発見、早期解決できるよう複数担任制を導入し、退学率の低減を図る。 コロナ禍による経済的理由が退学に繋がらないよう、保護者とも連携し、支援を図る。	複数担任制により、学生の状況を常に把握できるよう取り組んでいる。特に最上級生に関しては学習面だけでなく、不安や悩みを早期に掴み、対応できるように担任を配置している。 昨年ほどではないが、コロナ禍の影響を受けている。そのため遠隔授業時にも密に学生と連絡を取り、状況把握に努めている。 毎週、各学科会議や運営会議で諸問題を報告し、学校全体で問題に対する解決策を検討している。 保護者との面談等は今年度も実施困難な状況ではあったが、文書等で連絡を取り、学生の現状や問題点を共有した。 今年度より、修学支援新制度認定校となり、非課税世帯やコロナ禍における経済的な理由による退学者が出ないよう、特例の学生支援緊急給付金や緊急特別無利子貸与型奨学金等の斡旋を行った。また、学費支払期限の猶予等も行ったため、経済的な理由により退学する者は軽減できた。	退学理由については、入学後の職業観の不一致による転学が最も多い。本年度も、2回(12月と2月)入学予定者登校日を設け、職業意識の確認と入学前から同一学科内での交流が図れるよう努めている。 入学後も、担任と学生及び保護者、学校生活の相談窓口である学生支援室の連携を図り、専門の相談窓口の紹介等、早期解決に向けて取り組んでいく。 コロナ禍で学生との連携ツール(Classroom 等)の拡充は図れたが、保護者との連携についてはさらに改善していく必要がある。いかなる状況下であっても、迅速に、的確な対応ができるよう努めていかなければならない。	組織図 学生個人連絡票 学生面談記録 各科内会議議事録 教職員会議議事録 学生支援室日誌 学生支援室利用簿 学校ホームページ・SNS

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
コロナ禍ではあったが、感染予防対策を徹底し、学生も登校し対面授業を多く行うことができた。そのため、学生の抱える学習面やその他の諸問題については比較的迅速にかつ的確に対応していくことができ、退学率も低減できたと考える。今後の状況変化にも対応できるよう、担任と学生および保護者、学生支援課がうまく連携し、学生の退学率の低減、更には学校自体の学生満足度向上に努めていく。 国家資格取得だけでなく、学生の様々な問題に的確に対応できるように教職員の質の向上も図っていかねばならない。	特になし

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	石橋 大輔
--------	-----------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	学生が抱える問題・悩みは学内・学外にかかわらず、多種多様である。 最終目標である資格取得に向け、安心して有意義な学生生活が送れるようサポートしていく。	担任による問題の早期発見、各科内だけでなく、学校全体で解決策の検討、解決ができるような体制を整えている。 昨年度からのコロナ禍により、メール等の電子媒体を用いた伝達手段も教員、学生ともに浸透した。 学内に設置している学生支援室に職員を配置し、学習面や経済的な問題、就職等の相談に対応している。	特に心配された経済的な相談に対しては、修学支援新制度の認定を受けたこともあり、それによる退学者は少なかった。 学生の精神的な問題に対する支援体制はさらに強化していく必要があるため、的確なアドバイスができるよう、専門的な知識を持った担当者の育成やスキルの向上を種々の研修会等に参加し培っていく。	組織図 学生支援室日誌 学生支援室利用簿 学生面談記録 学生要覧
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	各種相談対応の教職員を配置し、受け入れ時の支援体制を整備する。	本年度は新たな留学生受入れはなかった。 昨年度受け入れた韓国からの留学生（診療放射線科在籍）についても大きな問題もなく順調に勉学に取り組み進級している。継続して担任を中心に学生支援課とも協力し、国家資格取得できるようにサポートしていく。	現状、問題なく推移している。	中長期在留者の受入れに関する届出 留学生調査票

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
心配された経済的な相談は、担任と奨学金担当で情報を共有し、本年度から認定を受けた修学支援新制度等を活用しながら対応した結果、それほど多くもなく、それを理由とした退学者もほとんどいなかった。 今後は、多様化する学生からの相談に対し、迅速で的確な対応ができるよう担当者の育成が課題である。	留学生在籍 1 名（診療放射線科 2 年）

最終更新日付	令和 4 年 1 月 21 日	記載責任者	石橋 大輔
--------	-----------------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	学生が安心して学習できるように、経済的サポート体制を整える。	経済的支援として日本学生支援機構の奨学金等を整備している。 本年度より、高等教育の修学支援新制度の認定校となり、対象者に対して給付型奨学金と学費の減免を実施した。新入生だけでなく、在校生も含め、全学生の約 1 割が対象となり利用している。	本年度より高等教育の修学支援新制度の取扱いを開始した。初年度は担当者中心に相談等に対応したが、各担任や学生募集担当者を中心に、全教職員が制度を理解し、対応できるよう、研修会を開催し周知を図っていく。	本校ホームページ 日本学生支援機構ホームページ 文部科学省ホームページ 厚生労働省ホームページ 福岡県庁ホームページ

5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	定期健康診断を全学生に対し年1回実施する。 併設のクリニック・整骨院・鍼灸院にて、体調に異常があればすぐに受診、適切な処置を行える体制を整備する。 継続して感染症対策を徹底する。	毎年年度初めに全学生を対象に行う健康診断は本年度も実施した。 本年度も、コロナ感染を防ぐため、時差登校や登校時、教室入室時の手洗いの徹底、毎日の体温と家族を含めた風邪症状の有無の確認を行った。異変があればすぐ報告するよう徹底をし、関係各所と連絡を取り集団発生が起こらないよう努めた。特に最上級生における国家試験前の感染が起こらないよう、教室配置等配慮した。 附属施設を利用した場合の学生見舞金制度も行っている。	次年度も継続した感染症対策(手洗いの励行、発熱健康状態のチェック等)は必要不可欠であるので、学生、教職員全員で徹底して行っていく。	組織図 健康管理規程 見舞金申請書 学生要覧 健康チェックシート
5-19-3 学生寮の設置等生活環境支援体制を整備しているか	遠隔地から就学する学生、保護者共に安心して学生生活が送れるよう、また学習にも取り組めるような環境を確保する。	提携寮を4か所(男子寮、女子寮各1か所、共同寮2か所)指定している。 寮母常駐・食事付き等、学生と保護者が共に安心して生活できる環境を整えている。オープンキャンパス時の寮案内や、入学前の宿泊の体験も可能で、遠方からの就学に対する不安の低減に努めている。 就学後も必要に応じ寮の管理会社と連携を図り学生の生活支援体制を構築している。	引き続き、寮の管理会社と連携を図りながら、生活環境を安定させ、学習に専念できる環境づくりに取り組んでいく。	本校ホームページ 学校パンフレット 学生寮パンフット

5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	学生生活の充実のために課外活動に関する体制づくりや、将来への職業理解に繋がるような情報提供を行い支援する。	部活動は17部活(運動部14、文化部3)があるが、昨年度に引き続きコロナ禍により顔合わせは行ったが、全部活動の実際の活動は自粛した。専門学校体育大会も2年連続行われなかった。 校友会による支援活動や各種救護活動、糸島市等地域の健康増進活動との協力も活動を自粛しながらも継続し、在学中から実際の現場を学ぶ機会を提供している。	課外活動の目的は健康増進、学科間を越えた交流が主である。2年にわたり十分な活動ができていない。次年度は状況を見極めながら、十分な感染症対策を行える範囲ではあるが、活動していきたい。 学生に対して、幅広く周知し、積極的に参加するよう案内を行っていく。	本校ホームページ 学校パンフレット 学生要覧 救護ボランティア報告書
-----------------------------	--	---	--	---

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
公的な奨学金を中心に経済的な支援を行っている。本年度より高等教育の修学支援新制度の取扱いを開始し、学生の約1割が利用している。今後も円滑に支援ができるよう担当者だけでなく、教職員全体で対応できるような体制を構築していく。 学生寮に関しては提携寮を設置し、入学前の宿泊体験も受け付けることで遠方からの就学不安の低減に努めている。 本年度も課外活動は自粛したが、職業理解、健康増進のため、状況を見ながら活動の判断をしていく。部活動、各種救護活動ともに学生への積極的参加を促し、有資格者と共に活動できる実際の現場を学ぶ環境、機会充実させ、職業理解に繋げていく。	本年度より、高等教育の修学支援新制度の取扱いを開始した。全学生の約1割が利用している。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	石橋 大輔
--------	-----------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	学生が抱える問題(学習状況や出席状況、日常生活等)は様々である。学生個々に関する問題をいち早く発見し、解決するためには、保護者との連携は不可欠である。保護者と情報を共有し、共に連携を取りながら、問題の早期解決に繋げる。	年度初めに学生個人連絡票と連絡網を作成、更新し運用している。学生の学習や生活の状況を担任が把握し、問題があれば保護者へ連絡し、早期改善に取り組んでいるため大きな問題はない。必要と判断した場合には Zoom 等を活用した保護者面談の実施等を検討していく。 学生に対する連絡事項の伝達は、クラス単位で Classroom やメール、その他 SNS を活用等確立しているが、保護者には学生を介しての伝達となっている。	本年度も、コロナ禍により保護者と直接の面談はほとんど行うことができなかった。学生の個人的な事項は電話や文書によるやり取りが中心である。 今後は学生個人の問題に対しては、迅速に的確に対応するため、保護者のメール等を活用し、奨学金等全体的な連絡事項等は学校 HP にアップし、それを確認してもらう等、直接保護者にも情報が伝わるよう促していく。	学生個人連絡票 学生面談記録 学生連絡網

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
担任が保護者と連絡を取り、学生の現状を確認しながら、問題の早期解決に取り組んでいるが、電話や文書等が中心で、直接面談することはコロナ禍において困難な状況は続いている。現状問題はないが、今後の状況をみながら遠隔での面談等も取り入れていきたい。 保護者への情報伝達も直接保護者にできるような体制作りも必要であり、今後の検討課題である。	特になし。

最終更新日付

令和4年1月21日

記載責任者

石橋 大輔

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	校友会を組織し、卒業生と連携を取れる環境を整備している。求人情報の交換やキャリアアップ等の支援が実施できるようにしている。	年2回の校友会を開催し、特別講演によるキャリアアップ支援や、就職相談会を実施している。昨年度は中止となったが、今年度はオンラインにて開催することができた。	今年度は2回校友会をオンラインで開催できたが、卒業生の参加は芳しくなかった。オンライン開催は初の試みであり、実施することに精一杯であったが、次年度以降は、多角的な視野から計画し、卒業生に有益な情報を提供できるよう努めていく。	本校ホームページ 校友会実施要項
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	校友会と連携しながら、各団体より外部講師を招聘し、卒業生に対し技術講習や勉強会を実施し、卒業後の再教育プログラムに取り組む。	今年度は例年に比べ縮小しているものの勉強会の実施が再開できた。卒業生に対し更なる技術講習や勉強会をできる限り実施していきたい。	校内における感染症対策をより徹底し、卒業生に対する勉強会や技術講習会を安心して開催できるように準備・検討をすすめていく。	学校案内パンフレット 本校ホームページ
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	社会人の就学を支援するため、授業もオンラインと対面によるハイブリッド方式での取り組みや、学内施設の感染症対策、利用時間に配慮しながら環境の整備を実施する。	働きながら学ぶ社会人経験のある学生は特に感染症に不安を感じるため、時差登校の実施や、オンラインでの授業参加、その他、共有スペースとなる共同学習室や図書館の運営に関しても座席間隔や換気等の対策も徹底した。 また、校内セミナーも再開し、意識の高い社会人に対しても学びやすい環境を整えた。	昨年度は中止となったが、今年度は校内セミナーを再開できた。社会人経験のある学生はモチベーションが高く、校内セミナーにも多く参加していた。	学校案内パンフレット 本校ホームページ 学生募集要項 セミナー予定表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今年度は例年通り 2 回校友会を実施できた。基調講演のみでの実施となったが、次年度は就職相談やキャリアアップ支援が実施できるよう計画する。 また、コロナ禍であっても、社会人が安心して学び易いように、環境の整備を実施する。	オンラインでの実施方法を更に検討し、より学べる環境となるよう模索していく必要がある。また、就職先訪問等に関してもオンラインを有効に活用し、業界に不安を抱える卒業生の支援や情報収集ができるように再検討していく必要がある。

最終更新日付	令和 4 年 1 月 21 日	記載責任者	柿木 邦友
--------	-----------------	-------	-------

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設、設備については設置基準等を十分に満たしており、教育課程上で必要な施設・設備・教育用具等を整備し定期的に点検している。その他にも感染症対策に必要な設備・備品を整備している。 学外実習については、実習指導者と到達目標等を共有し、教育課程に沿って体系的に実施している。また、グローバルな視点を育むための海外研修は、コロナ禍で中断しており渡航先や再開時期を慎重に判断する。 防災については、消防計画に則り施設・設備検査と防災訓練を実施しており、火災発生時のマニュアルを整備している。安全管理についても、学生・学校向け保険に加入し、怪我人・病人対応マニュアルを整備している。	感染症対策として、座席の間隔をとり教室入口にアルコールを設置し、各クラスで手洗い場を分けて設けている。共同学習室および学生ホールにアクリルパーテーションを設置した。また、教育環境向上のため屋上グラウンドに人工芝を設置し、屋外に歩行訓練場を新設した。 学外実習は、学内実習等と組み合わせて効果的で効率的な実習になる工夫を凝らし、また、単位数を増やして充実した職業教育となっている。海外研修先は豪州、ハワイ、台湾から選択する。どれもユニークな研修プログラムである。 緊急時の連絡網や安全管理の情報共有の手段として、従前の電話連絡網に加え、メールやインターネット、教育アプリケーションを活用している。 職域接種やPCR検査の実施など、昨今の状況を鑑み感染症対策を主とした安全衛生管理を行っている。

最終更新日付	令和4年2月8日	記載責任者	藤瀬 正
--------	----------	-------	------

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	専修学校設置基準及び養成施設指定規則等を満たす施設・設備・教育用具等を整備する。教育課程上で必要となる施設・設備・教育用具等を備える。	方針に則り施設・設備・教育用具等を整備しており定期的に点検し、次年度教育内容会議にて見直しを行っている。 感染症対策に必要な設備・備品を整備した。	遠隔授業等のためネットワーク環境の向上を進めていく。 新学科設置に伴い必要となる設備・備品等を整備していく。	校舎各室の用途・面積一覧表 機械器具・標本・模型の目録 教育用機器備品チェック表 次年度教育内容会議資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設置基準等を十分に満たしており、教育課程上で必要な施設・設備・教育用具等を整備し定期的に点検している。 感染症対策に必要な設備・備品を整備した。 新学科設置に伴い備品・設備等を整備していく。	感染症対策として、座席の間隔をとり教室入口にアルコールを設置し、各クラスで手洗い場を分けて設けている。共同学習室及び学生ホールにアクリルパーテーションを設置した。 教育環境向上のため屋上グラウンドに人工芝を設置した。また、屋外に歩行訓練場を新設した。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	西野 達也
--------	-----------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	教育課程に沿って、学外の施設と連携した実習により、職業教育を体系的に行う。 グローバルな視点を育むために海外研修を実施する。	実習指導者と到達目標等を共有し、教育課程に沿って体系的に学外実習を実施している。 コロナ禍で臨床実習を組み換え、海外研修を見送った。	実習施設と協働して確立したコロナ禍の安全管理体制を点検し見直す。 海外研修の渡航先や再開時期を慎重に判断する。	シラバス 臨床実習マニュアル 実習指導者会議議事録 学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
実習指導者と到達目標等を共有し、教育課程に沿って体系的に学外実習を実施している。 グローバルな視点を育むための海外研修は、渡航先や再開時期を慎重に判断する。	学外実習は、学内実習等と組み合わせて効果的で効率的な実習になる工夫を凝らし、また、単位数を増やして充実した職業教育となっている。 海外研修先は豪州、ハワイ、台湾から選択する。どれもユニークな研修プログラムである。

最終更新日付	令和 4 年 1 月 20 日	記載責任者	南島 孝信
--------	-----------------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	消防計画を定め、法令に則った施設・設備の検査や防災訓練を行う。 教職員と学生が災害時に迅速な行動をとれるようにする。	消防計画に則り、検査と訓練を実施しており、火災発生時のマニュアルを整備している。 また、緊急時の多様な連絡手段を導入している。	新学科の設置に向け、組織体制を再編する必要がある。 消防設備の耐用期間を把握し、定期的に更新する。	消防計画 消防用設備等点検結果報告書 総合訓練任務分担表 総合訓練実施報告書 火災報知器フローチャート 学科連絡網 学生連絡票
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	学校生活で起きうる危険や事故等に関するリスク管理を行う。 教職員と学生が緊急時に人身の安全を第一とした適切な対応をとれるようにする。	学生・学校向けの保険に加入し、リスクに備えている。 怪我人・病人対応マニュアル等を整備して、教職員と学生に発信し、安全管理に努めている。	安全管理に関する学生や教職員への情報発信や更新の頻度が高いので、ライブラリー化して最新情報を探し易くする。	学生生徒災害傷害保険加入証 学校賠償責任保険加入証 医療分野学生生徒賠償責任保険加入証 怪我人・病人対応マニュアル 新型コロナ衛生管理マニュアル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
消防計画に則り施設・設備検査と防災訓練を実施しており、火災発生時のマニュアルを整備している。新学科の設置に向け、組織を再編する。 学生・学校向け保険に加入し、怪我人・病人対応マニュアルを整備している。安全管理の情報発信に関して最新情報を分かり易くする。	緊急時の連絡網や安全管理の情報共有の手段として、従前の電話連絡網に加え、メールやインターネット、教育アプリケーションを活用している。 職域接種や PCR 検査の実施等、昨今の状況を鑑み感染症対策を主とした安全衛生管理を行っている。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	林 賢一
--------	-----------	-------	------

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
高校訪問、ホームページ、SNS、オープンキャンパス等による情報発信に加え、オンラインの学校説明会・入試説明会を実施して、本校の教育活動方針や各医療職種に関する特色等を積極的に発信している。 入学試験は、学生募集要項やホームページにアドミッション・ポリシーを明記して、必要な入学試験を実施している。Web 出願やオンライン入試を導入し、手続きの利便性の向上を図るとともに、遠隔地居住者に対する経済的負担軽減に取り組んだ。 一部の学科に教育課程の変更があったが、現状の学納金は次年度も据え置く。経費内容を見直しながら、地域医療機関から求められる高度な医療人を養成することを目指している。	コロナ禍にあっても受験生のニーズに応じた情報を提供できるよう、ホームページや SNS による情報発信を強化した。また、オンラインでの学校説明会や入試説明会を、内容をブラッシュアップした上で実施した。 歯科衛生科新設に際しては、当該学科の卒業までに掛かる経費等を算出した上で、適切な学納金を定める。

最終更新日付

令和 4 年 2 月 1 日

記載責任者

滝沢 哲也

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	本校の教育活動や各医療職種の特徴を高等学校等に情報提供する方針である。 それによって、医療職種に関する職業理解を深めてもらい、将来の進路選択やキャリアビジョン形成の一助となるよう、継続的に情報提供を行う。	コロナ禍であったが、徹底した感染症対策を打ち、かつ事前の訪問許可を得た上で高等学校等への訪問活動を行った。また、インターネットを利用した情報発信手段として、オンラインによる学校説明会・入試説明会を随時行っている。 具体的には、パンフレットや募集要項等の入った設置ボックスを各高校に配布し受験生が必要とする情報を入手しやすい環境を作った。 オンラインによる説明会では一人一人個別の質問に対応し、本校及び各医療職種の特徴や入試情報等各種資料を用いて情報を提供している。	コロナ禍が続いた場合は、今後も高校生と接触する機会や、高等学校への訪問活動が制限される可能性がある為、ホームページや SNS を通じた情報発信の強化、各コンテンツの一層の拡充を図る必要がある。 また、オンラインによる説明会の内容をブラッシュアップした上で今後も継続的に実施し、広く情報を提供する。 対面でオープンキャンパスを行う場合は従来どおり、感染症対策を徹底した上で実施し、受験生のニーズに応じた情報を直接提供する。	学校案内パンフレット 学生募集要項 就職支援室リーフレット 医療資格テキストブック 国家試験受験後の感想 国家試験合格速報 オープンキャンパスの案内チラシ 県外入試告知チラシ オンライン入試 (A0) 告知チラシ 本校ホームページ SNS (Twitter、Instagram、LINE、Facebook、YouTube) 高校訪問報告書 オープンキャンパス来場者アンケート

7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	専修学校各種学校協会の指針に沿い、かつ高等学校のご理解の下、適切に行う方針である。また、募集活動時に発信する内容は、万人が理解できる明瞭なものであるように努める。 Web 出願手続きの利便性の向上を図り、遠隔地居住者に対する負担軽減に引き続き取り組む。	コロナ禍の中、専修学校各種学校協会の指針に沿い、かつ高等学校のご理解の下、適切に行っている。 Web 出願手続きについては、10 月上旬に行う入試について出願期間の短さが受験生の不便を招くケースがあった為、Web 出願サイト開設期間を設け、出願書類の準備を早めに来るようにした。 遠隔地居住者に対する負担軽減策として、理学療法科・柔道整復科・鍼灸科の3学科でオンライン入試（A0）を実施している。 また、熊本県で2回、宮崎県で3回の県外入試を実施している。	入試日程によっては Web 出願の開設期間が短くなっている、受験生の利便性の向上を図るために、効果的な日程を検討する必要がある。	学校案内パンフレット 学生募集要項 就職支援室リーフレット オンライン入試（A0）告知チラシ 本校ホームページ SNS（Twitter、Instagram、LINE、Facebook、YouTube） 福岡県専修学校各種学校協会の通達文書
-------------------------------------	--	--	---	--

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
高校訪問、ホームページ、SNS、オープンキャンパス等をとおしての情報発信に加え、オンラインの学校説明会・入試説明会を実施し、本校の教育活動方針や各医療職種に関する特色、入試情報等を積極的に発信している。 Web 出願手続き内容の改善、オンライン入試（A0）及び県外入試の実施により、受験生の利便性向上に努める。	コロナ禍にあっても受験生のニーズに応じた情報を提供できるよう、ホームページや SNS による情報発信をより一層強化する。 また、オンライン学校説明会・入試説明会は、内容をブラッシュアップした上で今後も継続的に実施する。

最終更新日付	令和4年1月12日	記載責任者	館原 宗幸
--------	-----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	入学試験に関する規程を定め、学生募集要項に選考方法を明記し適切に運用する。 受験者の利便性を考慮し、学生募集要項は紙面のみならずホームページ上にも掲載する。 変更・追加等がある場合は、これを速やかに告知する。	アドミッション・ポリシーを学生募集要項に明確に記載している。 選考においては、各学科が掲げるアドミッション・ポリシーをもとに、学習意欲、協調性、コミュニケーションをとるに足るだけの基礎学力を有するかどうか等を総合的に評価し、合否判定会議で公正に判断している。	国による高大接続改革により、令和4年度大学入学者選抜要項には、(1) 基礎的・基本的な知識・技能 (2) 思考力・判断力・表現力等の能力 (3) 主体性をもって多様な人と協働して学ぶ態度、の3要素を評価することと規定されている。 本校はこの規定を踏まえてアドミッション・ポリシーを制定している。	学校案内パンフレット 学生募集要項 入学選考資料 入学試験に関する規定 本校ホームページ
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入学選考に関する情報や実績は正確に把握・記録し、適切に管理する。 個人ファイルに保管されている入学願書等の情報を活用することで、退学者数の低減につなげる。	個人情報に係る内容であるので、その取扱いについては専門部署を設け、担当者が適切に管理している。 個人ファイルの情報は、在学中の面談等において、学生の現状を把握するために活用している。	新たな学事システム(キャンパスマジック)を導入し、入学選考に関する実績と在学時の成績についての相関をさらに詳細に分析する。	受験者数の推移表 入学選考資料 個人情報ファイル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学試験は、各学科が掲げるアドミッション・ポリシーをもとに総合的に評価し、合否判定会議で公正に判断している。 本校独自の学事システム（キャンパスマジック）を導入し、入学選考に関する実績と在学時の成績についての相関をさらに詳細に分析する。	特になし。

最終更新日付

令和4年1月12日

記載責任者

館原 宗幸

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	学納金は教育内容にふさわしい、適切な水準に定めることを方針とする。 年間諸経費を明記して、入学者が卒業までに必要な経費をすべて明示する。	現状の学納金は教育内容にふさわしい、適切な水準に定められているため、次年度もこれを据え置く。	今後、施設・設備の拡充や、教育課程の変更による臨地実習時間数の増加等により、経費が増加する可能性がある。 その際には、適正な範囲内で学納金の見直しを行い、受験希望者に対してその理由を明確に説明する。 また、学科新設に際しては、当該学科の卒業までに掛かる経費等を算出した上で、適切な学納金を定める。	学生募集要項 本校ホームページ
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	入学辞退者に対する授業料等の取扱いは、平成 18 年度文部科学省通知の趣旨に沿って適正に対応している。	入学辞退者に対する授業料等の返戻取扱いについては、学生募集要項に明記し、入学辞退者に対して適正に対応している。	入学辞退申し出のタイミングで、学納金返戻に関する問い合わせを受けることがある。 オンラインの入試説明会やオープンキャンパス等で、当該事項に関する説明を十分に行うことにより、受験生や保護者に対して取扱いに関する周知を図る。	学生募集要項 本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
現状の学納金は教育内容にふさわしい、適切な水準に定められているため、次年度もこれを据え置く。 今後、施設・設備の拡充や教育課程の変更等により、学納金の見直しを行う可能性があるが、その際には受験希望者に対して理由を明確に説明する。	学科新設に際しては、当該学科の卒業までに掛かる経費等を算出した上で、適切な学納金を定める。

最終更新日付	令和4年1月13日	記載責任者	諸岡 大輔
--------	-----------	-------	-------

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中長期的な財務基盤の安定化には、入学者の安定確保が最も重要な課題である。学科の改組を含めた事業計画の進捗を確認しながら、全学を挙げて入学生の確保に取り組む。財務・経営状況比率の全国平均と比較した結果は、概ね良好であった。 予算及び計画は、各科・各分掌の会議を経て、運営会議において予算の方針を策定する。その後、評議員会での検討を経て、理事会で決定する。理事会及び評議員会に予算と決算の対比表を提出し、適正な執行管理を行っている。 私立学校法及び寄附行為に基づく監事による監査を実施し、監査報告書を学校ホームページに公開する。	令和5年度より歯科衛生科を設置することを決定した。 新型コロナウイルス感染症の拡大により、受験生の地元志向が高まり、県外からの受験者数に影響が出ている。県外における本校の認知度を高めていくことが、課題となっている。 令和5年度に歯科衛生科の設置申請をしていることから、中期予算を見直した。 監事には、毎月行われる教職員会議や運営会議にも出席していただき、適切な監査が実施されるよう努めている。

最終更新日付	令和4年2月1日	記載責任者	滝沢 哲也
--------	----------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	中長期的な財務基盤の安定化には、入学者の安定確保が最も重要な課題である。学科の改組を含めた事業計画の進捗を確認しながら、全学を挙げて入学生の確保に取り組む。支出面では、社会の変化に対応して教育活動の見直しを行いながら、コストの削減に努める。	令和 5 年度より歯科衛生科の設置を計画した。 高等教育の修学支援制度の対象校となることを契機として、幅広い層からの受験生の確保に努めている。	新型コロナウイルス感染症の拡大により、受験生の地元志向が高まっている。そのため県外からの受験者数に影響が出ている。県外の受験生に対して、本校の認知度を高めていくことが課題となっている。	過去 3 年間の計算書類 令和 3 年度予算 令和 3 年度事業計画書 学校案内パンフレット 本校ホームページ 令和 4 年度学生募集要項
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	財務・経営状況比率の全国平均と比較して、財務分析を実施する。	財務・経営状況比率の全国平均と比較した結果は、概ね良好であった。	財務分析結果について、教職員や関係者と共有し、学校運営の実態を共有する取組みが、さらに求められている。	過去 3 年間の計算書類 令和 3 年度度予算 財務比率比較表 5 ヶ年連続財務比較表 令和 3 年度事業計画書 令和 4 年度学生募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中長期的な財務基盤の安定化には、入学者の安定確保が最も重要な課題である。学科の改組を含めた事業計画の進捗を確認しながら、全学を挙げて入学生の確保に取り組む。財務・経営状況比率の全国平均と比較した結果は、概ね良好であった。	令和 5 年度より歯科衛生科の設置を計画した。 新型コロナウイルス感染症の拡大により、受験生の地元志向が高まっている。そのため県外からの受験者数に影響が出ている。県外の受験生に対して、本校の認知度を高めていくことが課題となっている。

最終更新日付	令和 4 年 1 月 7 日	記載責任者	滝沢 裕子
--------	----------------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	教育目標が実現できるように単年度予算・計画及び中期予算・計画を策定する。	予算及び計画は、各科・各分掌の会議を経て、運営会議において予算の方針を策定する。その後、評議員会での検討を経て、理事会で決定する。	令和5年度に歯科衛生科の設置を計画していることから、中期予算の見直しが課題である。	令和3年度予算書 2023年度までの財政計画 歯科衛生科を設置した後の2年間の収支計画 理事会議事録 評議員会議事録 令和3年度事業計画書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算及び計画に基づき適正な執行管理に努める。予算と決算の対比表を、理事会・評議員会に報告する。	理事会及び評議員会に予算と決算の対比表を提出し、適正な執行管理を行っている。	学科別の予算管理を進め、教職員に予算執行状況をタイムリーに提示することが課題である。	過去3年間の損益計算書 令和3年度予算書 理事会議事録 評議員会議事録 令和3年度事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
予算及び計画は、各科・各分掌の会議を経て、運営会議において予算の方針を策定する。その後、評議員会での検討を経て、理事会で決定する。 理事会及び評議員会に予算と決算の対比表を提出し、適正な執行管理を行っている。	令和5年度に歯科衛生科の設置を計画していることから、中期予算の見直しが課題である。

最終更新日付	令和4年1月7日	記載責任者	滝沢 裕子
--------	----------	-------	-------

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	私立学校法及び寄附行為に基づく監事による監査を実施し、監査報告書を学校ホームページに公開する。	監事には、毎月行われる教職員会議や運営会議にも出席していただき、適切な監査が実施されるよう努めている。	監査結果について、理事会・評議員だけでなく、監事から直接、教職員に対して意見をしていただく機会を設けていく必要がある。	法人寄附行為 監査報告書 教職員会議議事録 運営会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法及び寄附行為に基づく監事による監査を実施し、監査報告書を学校ホームページに公開する。	監事には、毎月行われる教職員会議や運営会議にも出席していただき、適切な監査が実施されるよう努めている。

最終更新日付	令和4年1月7日	記載責任者	滝沢 裕子
--------	----------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	私立学校法に基づき財務情報をホームページ等で公開し、関係者に広く周知する。	計算書類をホームページに掲載している。 高等教育の修学支援新制度の対象になったことから、ホームページの情報公開内容が増加した。	情報公開している事業報告書「財務の概要」の記載内容の見直しを検討している。	本校ホームページ 計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録） 事業報告書 監査報告書 情報公開規程 シラバス

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法に基づき財務情報をホームページ等で公開し、関係者に広く周知する。	高等教育の修学支援新制度の対象になったことから、ホームページの情報公開内容が増加した。

最終更新日付	令和4年1月7日	記載責任者	滝沢 裕子
--------	----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係法令及び設置基準を遵守し、適切な運営を行う。毎月行われる教職員会議等において、教職員に対して周知徹底を図っている。新入職員に対しては、入職時にコンプライアンス研修を実施している。 個人情報保護については、個人情報保護法に基づき、適正・的確に運用している。個人情報の安全管理が図られるよう、組織体制を整備し、情報を取り扱う権限を明確にしている。 文部科学省ガイドライン準拠における評価報告書にまとめ、学校ホームページに公表している。また、学校評価実施規程に基づき、学校評価委員会を選任し学校評価を実施し、その評価結果を学校運営に活かしている。 職業実践専門課程基本情報、第三者評価、自己点検・自己評価・学校関係者評価報告書、学則及びシラバス、高等教育修学支援新制度に関わる期間要件の更新確認申請書等を本校のホームページに掲載し、本校の教育内容を広く関係者に周知している。教育内容の公開を進めることが、教職員の意識を高めることにつながっている。	遠隔授業や在宅勤務をする機会が増えたことに伴い、ICT 機器の適切な活用方法や、個人情報の適切な管理方法について、これまで以上に教職員がスキルアップする必要がある。

最終更新日付	令和 4 年 2 月 1 日	記載責任者	滝沢 哲也
--------	----------------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	関係法令及び設置基準を遵守することが重要であると考ええる。また、コンプライアンスを確立し適切な学校運営を実行する。	関係法令や学校設置基準を遵守し、適切な学校運営が行われている。関係法令・諸規則を整備し、教職員会議において周知徹底を図り指導を行っている。学科長及び校務分掌責任者が遵守状況等を把握、管理している。状況については運営会議等で報告、学内で共有している。	昨年度に遠隔授業等の推進に伴い ICT 機器の整備が完了した。これらの機器を活用し、効果的な教育ができるよう研修等を実施する必要がある。	許可・届出書類 学則 学生要覧 運営会議議事録 教職員会議議事録 入職オリエンテーション資料 FD・SD 研修会抄録

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係法令及び設置基準を遵守し、適切な運営を実行する。また、教職員に対し、教職員会議において周知徹底図り指導を行う。学科長及び校務分掌責任者が遵守状況等を把握、管理している。さらに、入職時にはコンプライアンスに関する資料を用いて指導している。	遠隔授業において ICT 機器を活用し、効果的な教育ができるよう研修等を実施する必要がある。

最終更新日付	令和 4 年 1 月 21 日	記載責任者	中村 秀樹
--------	-----------------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	個人の権利・利益の保護を図るために個人情報保護に関する法令に基づく内部規程を定め漏えい、滅失、毀損防止と安全管理のために必要かつ適正な措置を講じる。 個人情報の取得や利用に当たっては、利用目的を特定しその範囲内で利用する。また、利用目的を通知又は公表する。	個人情報保護に関する内部規程に基づき必要かつ適切に運用している。個人情報の安全管理が図られるよう組織体制を整備し情報を取り扱う権限を明確にしている。また、情報システムのセキュリティは安全な物理的管理の運用を実施している。	個人情報保護に関する内部規程を適切に運用するために個人情報の取扱いに関する留意事項について定期的な研修会を検討する。 オンライン学習支援ツールを利用するために、セキュリティの強化を目的とした２段階認証を実施する。	個人情報保護規程 コンピューター使用ルール ウィルス感染等の防止について 学校関係者評価における守秘義務に関する規程 臨床実習要綱

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護法に基づき、適正・的確に運用している。個人情報の安全管理が図られるよう組織体制を整備し情報を取り扱う権限を明確にしている。	個人データが記録されていた機器や電子媒体等の廃棄は、安全管理のための措置に関する内容を委託契約において明確化する。 コンピュータウィルスによる個人情報の漏洩被害を防止する対策として、電子メール等への警戒、OS等の脆弱性の改善、ウィルス対策ソフトの適切な運用等を実施する。

最終更新日付	令和４年１月１７日	記載責任者	中西 代志弘
--------	-----------	-------	--------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	学校評価実施規程に沿って自己評価を行い、教職員全員が参加して自己点検を行うことを方針としている。	自己点検・自己評価委員会を設置し、全教職員参加型で自己点検を実施している。その評価結果を学校運営に活かしている。	自己点検・自己評価の結果、財務に於ける認識が低い傾向にあるため、各教職員への周知を行うことが課題である。	学則 自己評価報告書 学校関係者評価報告書 学校評価実施規程 学校評価委員会議事録
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	関係法令に基づき自己点検結果を公表する。	文部科学省ガイドライン準拠の評価報告書に取りまとめ、本校ホームページに公表している。	ホームページで公開している自己点検自己評価の結果について教職員会議で説明する。	本校ホームページ 自己評価報告書 学校関係者評価報告書 高等教育機関の修学支援新制度確認申請書
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	学校教育法及び専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、学校評価委員会を設置し学校評価を実施する。	学校関係者評価実施規程に基づき、学校関係者評価委員会を設置し、学校評価を実施し評価結果を学校運営に活かしている。	学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた改善に取り組む。	学校評価実施規程 学校評価委員会議事録 学校関係者評価報告書 本校ホームページ
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校教育法及び専修学校における学校評価ガイドラインに基づき実施した結果をホームページに掲載し、広く社会に公表する。	文部科学省ガイドライン準拠の評価報告書に取りまとめ、本校ホームページにて公表している。	学校関係者評価委員会を開催後、速やかに本校ホームページでの公表は行っているが、教職員への周知を図る必要がある。	学校評価実施規程 学校関係者評価報告書 本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
文部科学省ガイドライン準拠における評価報告書にまとめ、学校ホームページに公表している。また、学校評価実施規程に基づき、学校評価委員会を選任し学校評価を実施し、その評価結果を学校運営に活かしている。	自己点検・自己評価の結果、財務について関心が低いため、教職員に周知していく必要がある。また、毎年行っているものである為、学校評価が形骸化しないように、実施意図を周知することも必要である。

最終更新日付	令和4年1月25日	記載責任者	大神 啓裕
--------	-----------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	教育活動の質の向上を目指すとともに情報公開の義務を果たすため、在校生、卒業生、保護者及び学校関係者に対して、積極的に教育情報の提供を行う。	職業実践専門課程基本情報、第三者評価、自己点検・自己評価・学校関係者評価報告書、学則及びシラバス、高等教育修学支援新制度に関わる期間要件の更新確認申請書等を本校ホームページに掲載し、教育情報の公表を行っている。	情報公開するにあたり、情報資産の機密性・完全性の確保を行い、常に正常な運用が必要である。特に個人情報等の厳格な取り扱いが必要である。	学校案内パンフレット 本校ホームページ(職業実践専門課程基本情報様式 4 自己点検・自己評価報告書、) スマートフォン用本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業実践専門課程基本情報、第三者評価、自己点検・自己評価・学校関係者評価報告書、学則及びシラバス、高等教育修学支援新制度に関わる期間要件の更新確認申請書等を本校のホームページに掲載し、本校の教育内容を広く関係者に周知している。教育内容の公開を進めることが、教職員の意識を高めることにつながっている。	個人情報に関わる情報の公開については、本人に利用の用途とその範囲を文書化し伝達する必要がある。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	藤井 和彦
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献として、「医療」や「健康」、「スポーツ」等のテーマを主とした出前講義を随時受付け実施している。また、各種団体への施設提供ならびに、近隣自治体のスポーツクラブチームへの体育施設の提供を実施し、地域・スポーツの活性化の一助となるよう努めている。 国際交流については、海外教育機関への研修が昨年度同様中止となった。今後も感染症等の事由により海外研修の実施が困難な場合も想定されるため、その他国際交流の実施手段を含め検討する。 ボランティア活動については、感染症による各種イベントの中止に伴い、当初計画されていた救護活動等が制限された。今後は感染症の収束により、各種活動再開が見込まれる。医療や健康・スポーツイベント等への活動機会も増えてくることが想定されるため、ボランティアの募集状況や、実施状況について、本校ホームページやSNSを活用し積極的に情報発信をしていく。学生の社会的活動の機会を確保しサポートをしていく。	国際交流について、今般の社会情勢を踏まえ、オンライン上で実施可能な取組等を模索し、学生の国際交流の手段検討が課題となる。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	田中 七郎
--------	-----------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	種々の分野の団体に施設・設備等を開放し、地域を中心とした社会貢献、及び連携を深めることを目指す。	「医療」や「健康」、「スポーツ」等のテーマを主とした出前講義を随時受付け実施している。また、各種団体への施設提供ならびに、近隣自治体のスポーツクラブチームへの体育施設の提供を実施し、地域・スポーツの活性化の一助となるよう努めている。	引き続き本校の施設や人材をいかした社会貢献に努める。各自治体や県内の学校等も感染症への対策を行いながら、学びを継続していく体制が整いつつある。そのニーズに応え、本校の教育力を活かし社会貢献を行う。	学校ホームページ 施設利用スケジュール表 施設利用願 施設利用規定 出前講義申込書
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	社会のグローバル化に向け、海外の教育機関で研修を行い、学生が国際的な感覚を身につけられるようにする。	最上級生を対象とした海外教育機関への研修が昨年度に引き続き中止となった。今後も海外研修の実施が困難な場合も想定されるため、その他国際交流の実施方法を含め検討する。	海外研修の機会を除いた場合、外国語や異文化に触れる機会は限定的である。 今般の社会情勢を踏まえ、オンライン上で実施可能な取組も立案し、学生の国際交流手段を検討することが課題となる。	令和3年度事業計画

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「医療」や「健康」、「スポーツ」等のテーマを主とした出前講義を随時受付け実施している。また、各種団体への施設提供ならびに、近隣自治体のスポーツクラブチームへの体育施設の提供を実施し、地域・スポーツの活性化の一助となるよう努めている。 海外教育機関への研修が昨年度に引き続き中止となった。今後も海外研修の実施が困難な場合も想定されるため、その他国際交流の実施方法を含め検討する。	国際交流については今般の社会情勢を踏まえ、オンライン上で実施可能な取組等を模索し、学生の国際交流の手段検討が課題となる。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	當眞 裕樹
--------	-----------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	各種ボランティア活動に学生が取り組むことにより、社会性を育み、医療従事者としての自覚を促す。また、社会貢献の重要性を体験させるため、積極的に案内を行う。	新型コロナウイルス感染症の影響による各種イベントの中止に伴い、年度当初計画されていた救護活動等が制限された。 一方、新規の活動として令和4年5月開催（令和5年7月へ延期決定）の「FINA 世界水泳 FUKUOKA 2022」に向けボランティアとして協力することが決定した。	新型コロナウイルス感染症の収束により、各種活動再開が見込まれる。 医療や健康・スポーツイベント等への活動機会も増えてくることが想定されるため、ボランティアの募集状況や、実施状況について、本校ホームページや SNS を活用し積極的に情報発信をしていく。 学生の社会的活動の機会を確保しサポートをしていく。	各種ボランティア募集資料 本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
新型コロナウイルス感染症の影響による各種イベントの中止に伴い、年度当初計画されていた救護活動等が制限された。 今後は感染症の収束により、各種活動再開が見込まれる。医療や健康・スポーツイベント等への活動機会も増えてくることが想定されるため、ボランティアの募集状況や、実施状況について、本校ホームページや SNS を活用し積極的に情報発信をしていく。 学生の社会的活動の機会を確保しサポートをしていく。	新規の活動として令和4年5月開催（令和5年7月へ延期決定）の「FINA 世界水泳 FUKUOKA 2022」に向けボランティアとして協力することが決定した。

最終更新日付	令和4年1月21日	記載責任者	當眞 裕樹
--------	-----------	-------	-------